

## 序

タチバナ遺跡の調査が今回を以って終了した。計3回の調査は案外に困難であった。特に今回の調査は、遺構の埋没深度の推定を誤ったためことのほかの作業量であったが、調査参加者全員の奮闘により、辛うじて予定の調査量に達することができた。

成果は教育的にも学術的にも一応満足のゆくものであった。学生諸君は本土と少し姿の異なる文化になじみながら調査・整理・執筆等の技能を身につけてくれた。また、南島の土器編年の問題、南島九州間の交渉の問題について新事実を提示することができた。

この間、十島村教委の敷根忠昭氏、調査の現地側の推進力になって下さった吉岡亀太氏はじめ、随分沢山な方々のお世話にあずかった。紙面が足らず、言葉を尽すことができないが、衷心より御礼を言上したい。

1980年5月20日

白木原和美

## 例言

1. 本書は熊本大学文学部考古学研究室活動報告7冊であり、タチバナ遺跡発掘調査概報である。
2. 本書の編集は主として中村があたった。執筆は調査参加者の分担により、それぞれの文末に名記して示した。
3. 石器の材質鑑定は熊本大学教養部地学教室高橋俊正氏にお願いした。
4. 本書の作成にあたり、遺構を種別に分け、竪穴住居址=L.S.、土城=L.K.、炉址=L.F.の略記号と整理番号を付した。
5. 遺物の整理および遺物実測図・拓本は調査参加者全員による他、鳥越のり子の協力をえた。
6. 第三次調査参加者は以下に掲げるとおりである。

白木原和美      甲元 真之      中村 愿

下村 智	西住欣一郎	永田 次郎
宮本 千絵	荒牧 宏行	熊谷 智徳
本田 博久	吉永 明	小畑 弘己
河野 法子	谷口 武範	辻 満久
永目 尚子	古荘千栄子	古城 史雄
松尾 法博	村岡 則継	米倉 秀紀
西谷 大		
特別参加		
劉 茂源	木下 尚子	

## 本文目次・挿図・図版目次

一 調査の概要……………	1	第1図 タチバナ遺跡位置図……………	1
二 層序……………	3	第2図 タチバナ遺跡地形測量図…	2
三 遺構……………	5	第3図 L.S.13平面・断面実測図	4
四 出土遺物		第4図 遺構分布図……………	6
1. 土器……………	10	第5図 土器実測図(1)……………	11
2. 石器……………	14	第6図 土器実測図(2)……………	13
五 まとめ……………	16	第7図 石器実測図……………	15

図版1 上 遺跡遠景(南西から)	下 遺跡発掘後全景(南から)
図版2 上 遺構状況(東から)	下 遺構状況(南から)
図版3 上 L.S.11(南から)	下 L.S.12(南から)
図版4 上 L.S.15~17(南から)	下 L.S.13中央大形ピット状況
図版5 上 L.S.13南北畦断面状況	下 L.S.13東西畦断面状況
図版6 上 L.S.13遺物出土状況	下 L.S.13遺物出土状況
図版7 上 I~III類土器	下 IV・VI類・その他の土器
図版8 上 磨製石斧・磨石	下 石皿